

味わい表現をゆたかにするための言葉

ふくしまひろき
福島宙輝

慶應義塾大学院政策メディア研究科博士課程、助教(有期)
記号論、認知言語学、認知科学が専門分野。
人が感じた味わいをどのように言語記号に結びつけているのかを研究

味わいを言葉で豊かに表現する能力

ここでは、味わいの表現を豊かにしていくために何が必要かということを考えていきたいと思いません。

味わうことに関するプロはたくさんいます。おいしい料理を巧みに生み出す料理人やシェフはもちろん、食品会社、飲料会社では製品開発にあたって専属のテイスターが商品の味や香りを綿密に設計しています。グルメリポーターの趣向を凝らしたコメントには食欲をかき立てられますし、とりわけ味わいをことばで表現するということにかけては、ソムリエという職業を思い浮かべられる方も多いことでしょう。ソムリエやグルメリポーターは、豊かなことばで魅力的な味わいを伝えてくれます。彼らの表現の豊かさは、いったいどこから現れるのでしょうか。

たとえばソムリエは、ワインに含まれている味わいをこと細かに言い当てることができます。まずは見た目、そしてグラスから立ち上るフレーバー、口に含んだ味わいの要素に対して、ユニークなことばを的確に当てはめていきます。

この能力は驚くべきものです。もともと味や香りの情報は、言語とは相性の悪いものとされています。目の前にあるものの名前は簡単に言うことができるのに、いま口にした日本酒の味とその前に飲んだお酒の味がどう違うかを指摘できないもどかしさを、本書を手にとられている皆さんも感じたことがあるはずですよ。

甘味と酸味がわかったら、その関係を語る

しかし、口にしたワインや日本酒にどのような味の要素があるかを指摘することは、味わいの表現の入り口にすぎません。味わいを豊かに語ろうとするならば、日本酒に「リンゴの香りがある」「ヨーグルトのような酸味がある」という表現を超えて、酸味と甘味が「どうなのか」を語ることが必要です。少し例を見てみましょう。

- ・可愛らしい甘味が顔を出す、奥ゆかしい旨さを秘めた一本
- ・甘味と酸がうまくまとまり、きれいに消えていく

こちらはグルメ雑誌の表現例ですが、とても魅力的な表現ですね。注目したいのは、「顔を出す」「秘

める」「まとまる」「消えていく」といったことです。単に甘味や酸味の存在を言うだけでなく、それらがどのようなバランスなのか、どのように感じられるのか、どう変化するのかを魅力的に語っています。このように、味わいを豊かに語る上で重要なのは、「味の要素間の関係性を語る」ということとのようです。単に何の味があるか、どんな香りがあるかではなく、ふたつ以上の香りや味が分かったときに、その味の要素同士がどのような関係性なのかを語ることで、味わいの表現はより深みを増します。

関係性を語るために動詞を使う

私たちが使う日本語では、関係性を語るのは動詞の仕事です。「甘味と酸味がとけあう」「酸味が旨みを覆い隠す」などです。こうした動詞があることで、味わいの変化や動きを、よりいきいきと表すことができるようになります。

味わいの関係性を表す動詞を使いこなすことが豊かな味わいの表現に必須だということはわかりましたが、それでは実際にどのような動詞を使っていけば良いのでしょうか。日本酒の味わいを表現した書籍や雑誌のデータをもとに、よく使われている動詞を分析してみると、おおむね100語くらいの動詞が浮かび上がってきます。

問題は、これらの動詞をどのように使いこなすかです。動詞が表すものは名詞よりも抽象性が高いので、「リンゴ」「メロン」のようにテイステイングワードとして列挙していてもうまくいきそうにありません。

いろいろな工夫が考えられますが、まずはよく使われる動詞を、意味の近さやイメージの近さでグループにしてみましょう。例えば、「切れる」と「切れ上がる」は仲間だといえそうですし、「広がる」と「ふくらむ」は私の中では同じイメージです。このようにして、イメージの近いものをグループにしていくと、表1のような24のグループができあがりました。仮に、「味わい動詞リスト」と呼ぶことにしておきましょう。

動詞の意味を絵に描いて関係をイメージで捉える

さて、味わいを表現するぞとなったときに、この動詞リストをどんと見せられて動詞が使えるのかというと、それは少し難題に思えます。もうひと工夫してみましょう。今度は、グループごとの動詞に共通している意味やイメージを、絵で描いてみます。例えば、「まじる」「とけ合う」「まじわる」のグループに共通したイメージを描いてみると、こんな感じでしょうか。図1のDを見てください。

一つの絵の中にあるいくつかの図形は、「酸味」や「メロンの香り」といった、味や香りの要素を表しています。二色で描かれているのは、メインとして表現したい味と、サブとして表現したい味を区別して表すためです。

こうした図形をすべてのグループに対して描いてみると、図1のような「味わい関係図式」が完成します。

〔図1〕 味わい関係図式

A		B		C		D	
E		F		G		H	
I		J		K		L	
M		N		O		P	
Q		R		S		T	
U		V		W		X	

〔表1〕 味わい動詞リスト

A	立つ 立ち上がる 現れる 開く 花開く	B	消える 引く 過ぎ去る	C	変わる 転じる 押し流す	D	まざる 溶け込む まじわる
E	繰り返す 織りなす	F	散らばる 華やぐ 弾ける 広がる	G	伝わる 走る 駆け抜ける 貫く	H	締まる 引き締める 締めくくる
I	切れる 切れ上がる 切れ込む	J	据わる 沈む 横たわる	K	導く 取り込む 引き出す 誘う	L	潜む かいま見える 秘める 息づく 忍ばせる
M	残る 保つ 続く	N	取り巻く 覆う 包み込む 包み隠す はさむ ふちどる	O	隠す 陣取る 重なる 抑える 占拠する	P	際立つ 映える 引き立つ 華やぐ
Q	陣取る 広がる 広げる	R	揺らめく 浮かぶ たどよう 流れる	S	根付く 根ざす 落ち着く	T	高める 増す 引き立てる 強める
U	兼ね備える 伴う 備わる 帯びる	V	張る 張りつめる	W	跳ねる 弾む	X	立ち昇る こみ上げる 湧く 押し上げる

イメージの図式と動詞リストを使って、日本酒のおいしさを言葉で表現してみる

使い方

- 1・日本酒を呑み、含まれている味や香りの要素を確認する
例…まったりした甘味と、フレッツシユな酸味があるな
- 2・メインとして表現したい味を決めます
例…甘味のほうが強いけれど、酸味をメインに表現してみよう
- 3・メインの味を水色として、味わい関係図式からイメージに合う絵を選びます
例…HかUみみたいな感じかな？ 酸味の動きを表したいからHにしてみよう
- 4・図式にあてはまる動詞を、動詞リストから選びます
例…「まったりした甘味を爽やかな酸味がくつと引き締める」がしっくりくるな

いかがでしょうか。これはぜひ日本酒を実際に味わいながら試していただきたいものです。

メインとサブで色分けしたのは、同じような図でも焦点の当て方によって表現が異なるためです。例えば、Lの図とOの図は、似たような関係性を表していますが、スポットライトをどちらに当てるかで動詞の選択は変化します。大きな味の裏側に隠れた小さい味をメインで表現したいL図に対して、O図は大きい方の味をメインで表現しています。同じ日本酒を表現するにしても、「甘味の陰から爽やかな酸味が顔を出す（L図）」と「どっしりした甘味が酸味を覆い隠す（O図）」では伝わる印象が異なるはず。味わいの要素がいくつか感じられたときには、どの要素をメインで表現したい

かを少し意識してみてください。

味わい関係図式の使い方のポイントは、先に動詞リストを見ずに、図式のイメージから入ることです。ただし、図式に描かれているのは味や香りの要素ですから、最初のステップとして呑んだ日本酒の中にどのような味や香りが含まれているかを言い当てることができないと使いづらいと思われま。そういう意味では中級者向けと言えるかもしれません。

自分の図式をもち、自分の動詞で表現する

もちろん、この図式に違和感を覚える方もいらっしゃると思います。なぜなら動詞をグループ化したのも筆者ですし、グループに共通したイメージを描画したのも筆者だからです。もちろん、ここに挙げた動詞以外にも、味わいの関係を表す力を持つ動詞はたくさんあります。この図式は、唯一無二の絶対的なものではないのです。

表現する人の数だけ動詞のイメージはありますし、どの動詞が仲間かという感覚も、味わう人によって異なります。おそらく重要なことは、そうした違和感込みで「とりあえず」ことばにしてみても、納得できなければ言い換えの表現を探してみることに、あるいはもつと深く味わいを探れるように頑張ってみることはないでしょうか。味わいや、味わいの表現に正解のようなものはありません。自分の感覚、自分だけのイメージで良いのだと思います。難しい言葉を使うならば、「味わいは個に依存する」のです。

味わい表現の追求は限りなく続く楽しみ

本章では、味わいの表現を豊かにするために動詞の表現が重要なこと、そして動詞の表現を手助けしてくれるツールとして「味わい関係図式」を紹介してきました。ひとつ、重要なことを最後に示しておきましょう。今回は、日本酒の例を挙げつつ味わい関係図式を紹介してきました。日本酒以外にも使えそうだと思う方もいらっしゃるかもしれませんが。しかし残念ながら、この図式は日本酒以外にはおそらく意味を為さないものです。

ことばの意味は対象（飲み物や食べ物）に依存します。わかりやすい例を挙げると、日本酒とコーヒーの「コク」が表すものは異なります。日本酒であれば甘味と旨味などの複合体が「コク」ですし、コーヒーであれば焙煎香や苦味が「コク」の示すものに入ります。あるいは日本酒で「ふくよか」というのは、花のような香りではなくて、米の旨みを思わせる香りを指すのが一般的です。このように、語の意味が対象に依存する以上、この図式や動詞リストも、日本酒にだけ通用するものと思われれます。もっと言うならば、味わいが個に依存すると言いましたから、この図式は筆者が日本酒を呑んだ時にだけ通用するものと言えるかもしれません。

味わいを豊かに語るといえるのはとても難しい道のりですし、おそらく、簡単な表現ツールのようなものは無いはず。それ故に「美味しい」を語る人は個性が光るのでしょう。思わず顔もほころぶようなものを召し上がった際には、ぜひ味と味との関係性を意識して、楽しい動詞表現にチャレンジしてみてください。